

## 近森病院

# 入退院センター始動！！

近森病院 院長 近森 正康



2016年12月5日より入退院センターが始動しました。以前は、入院手続きを正面受付前の小さなカウンターで事務クラーク2名が行っていたため、待ち時間が長くプライバシーに配慮されていないことが懸念事項として挙げられていました。さらに増床に伴う入院患者さんの増加もあり、業務量の大幅な増加もありました。

今回、本館B棟1F旧総合診療科外来を利用して、入退院センターが設置されました。業務としては、これまで病棟看護師が行っていた入院患者さんの病歴、アレルギー歴や生活状況などの聴取を行い、病棟業務の軽減を行ったり、退院後に福祉サービスが必要になる患者さんや転院が必要になる患者さんの早期介入を行ったりすることが中心となってきます。

稼働時間は平日の午前8時30分から17時までになっています。センターには事務クラークが3～4名、看護師が3～5名の布陣となっています。必要に応じてソーシャルワーカー、薬剤師、管理栄養士が介入しています。また、退院後ご家族のお迎え待ちの患者さんの待機場所も完備しています。稼働から1カ月が経過し、入退院センターで関与した入院患者さんは487名（1日平均25.6名）でした。

多職種が関わることにより、「医療費や公的扶助の相談に迅速に対応できるようになった」、「入院患者さんやご家族が相談をしやすい雰囲気ができた」といった声が上がっています。病棟看護師からは、「問診をセンターが行っているため患者さんのケアに時間をより使えるようになった」と好印象

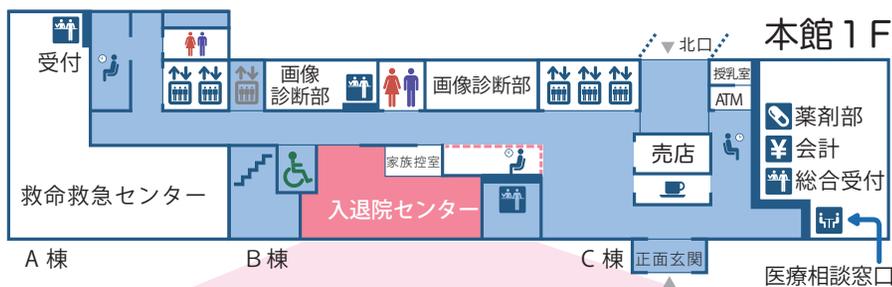
です。

今後の目標としては、患者さんを病棟までご案内する係を配置したり、退院業務にも積極的に関わられるようにしていきたいと思います。患者さんやご家族におかれましても、入院中、退院後の不安がある場合は遠慮なく入退院センターまでお声掛けください。

ちかもり まさやす



▲入退院センタースタッフ



▲受付カウンター ▼手続きカウンター



※ ROOM  
緊急入院等の説明時にプライバシーが守られるよう個室を新設





## かつての精神医学は サイエンスではなかった!?

近森病院総合心療センター  
副センター長 宮崎 洋一

私が医者になった1984年当時、脳は解剖学的にわかっている、機能に関してはブラックボックスのままでした。そもそも脳の働きがわからないことから、少しでも心の働きを理解する枠組みとして、心理学や精神分析や認知科学が生まれました。

精神分析の産みの親であるフロイトは、優秀な神経内科医であり心の働きを少しでも科学的に理解するために、物理学の用語（心的エネルギー等）を導入して精神分析を構築していきました。そのフロイト自身が将来、脳の働きが科学的に解明され、分析の用語が科学用語に置き換えられることを望む、というような内容を書き記しています。

1990年代以降にガンの研究をしていた生化学・分子生物学・免疫学等の

優秀な人材が脳科学・神経科学の方へシフトしてきて、一気にこの分野の理解が進むことになりました。そこから精神機能・精神疾患の科学的理解も随分進んできました。

かつて精神医学において薬物療法と精神療法（カウンセリング等）とは全く別物でしたが、今や精神療法の効果があったケースでは「脳のこの部分がこのように変化した」ということが分かってきて、両者が同じ次元で捉えられるようになりました。

私が医者になったころの精神医学は、「サイエンス」とは言い難かったのですが、最近はいろいろな点で「サイエンス」となっています。精神医学にワクワクするようなサイエンス的側面ができてきたといえます。これから精神機能の科学的解明がどんどん進むと予想され、私自身もとても楽しみです。

みやざき よういち

## 3月の歳時記

### 侘助

近森リハビリテーション病院  
5階病棟看護部長 西森 明美

侘助とは茶花です。茶人であればたぶんほとんどの方がご存じだと思います。

花が小輪で一重のかわいらしい椿で花の色も赤・白・ピンクなどがあります。山茶花の花も小さいですが山茶花とは違いひっそりと咲いて奥ゆかしく、可憐で愛らしく一輪挿しにして愛でると、ずっと眺めていたい気持ちになります。

にしもり あけみ

絵・近森病院  
附属看護学校  
事務局 南幸子



## 看護師特定行為研修

### 看護師特定行為研修の 実習が始まりました!

看護師特定行為研修管理委員会 副委員長  
近森病院 診療看護師 青柳 智和



2016年10月に始まった、「看護師特定行為研修」ですが、10名全員が晴れて320時間の共通区分を修了し、2月から実習に出ております。特定行為を行うには医師の視点が必要となるため、実習指導は主に医師が担当します。

本研修の大きな特徴は「手順書を用いた特定行為」です。例えば点滴を選択する場合は、点滴の内容の理解はもちろん、患者さんの状態を適切にタイムリーに、医療安全を考えてアセスメントする必要があります。

この作業に受講生はみんな戸惑いま

すが、回を重ねることに「医師の考え方が理解できた」と口をそろえます。いまでは当たり前のように、医療面接と身体診察ができるようになってきました。

3月の修了式まで全力で頑張っていきます。

あおやぎ ともかず





## 50名の若手病院長、 経営者を迎えて

近森病院 院長 近森 正康

1月14日、「西日本若手病院経営者の会」が近森病院で開催されました。まず、国際医療福祉大学の高橋泰先生から今後の医療がどう変化していくか、人口減少時代に向けてICTを用い、労働生産性を高めていく必要があることを、わかりやすくご講演いただきました。

次いで近森正幸理事長から「これが

らの近森会グループのあり方」と題して近森会のこれまでの取り組み、昨年4月の診療報酬改定の衝撃と対応、院長交代に至った経緯などが講演されました。その後、数グループに分かれて病院見学を行いました。

50名の40～50代の病院院長・経営者の参加がありましたが、皆さん地域医療のなかでの自院の役割を意識し



▲国際医療福祉大学の高橋泰教授

て、それぞれの医療を実践しており、たいへん刺激になり実りのある会となりました。

遠方からお越しいただいた参加者の皆さま、当日の会場運営を行ってくれた当院スタッフの皆さん、ありがとうございました。

ちかもり まさやす



## ● 近森看護学校通信 15 ●

### 完成年度を迎えて

#### — 国家試験の準備 —

本校は平成27年4月開校、平成29年4月に新1年生を迎えると3学年約120名の学生が揃い平成29年度は完成年度となります。完成年度とは、開校後初めて全学年が揃う年度を意味します。

また当年度は、本校にとって初めての『看護師国家試験』の受験年です。3年生全員がベストな状態で国家試験に臨めるよう、教員・事務各々に国家試験主担当を置き、学生へのスムーズな対応に努めます。

3年生にとっては、より大切となる最後の1年。教職員全員で万全な体制を整えます。

(五藤 綾美)



## 近森病院

患者さんアンケート掲示板ができました。

いただいたご意見は、病院内全職員で共有し今後の活動に活かしていきます。



本館A棟薬局前に投書箱とともに設置しています。毎月更新していきますので、ぜひご覧ください。



## おまかせください♥ 地域の相談窓口です。

高知市北部地域高齢者支援センター  
えのくち出張所所長  
保健師 **山本 百合**



▼ミニデイ・サロン開催場所

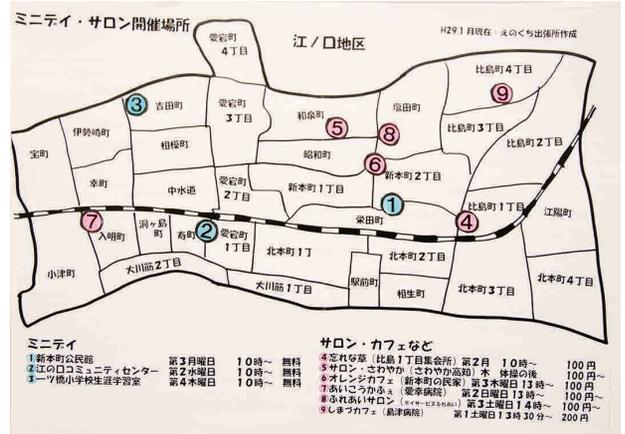
年をとっても住み慣れた地域で、その人らしくいきいきと生活を続けられることができるように、地域のさまざまな社会資源を使って、高齢者の生活を総合的に支えていくための拠点として、高知市地域高齢者支援センター（地域包括支援センター）を市内5カ所と1カ所の分室を設置しています。

また、中学校区を目安に市の委託を受けた17カ所の出張所があり、地域の高齢者の方たちの身近な相談窓口として、介護や生活の困りごと、介護保険などの総合相談や支援、地域における介護予防の啓発などを行っています。

「足が弱ってきて困っている」「物忘れが進んできた」など、ご本人、ご家族、

市役所などの関係機関、病院やかかりつけ医、ケアマネジャー、地域の民生委員さんなどから相談があります。相談があれば訪問させていただき、詳しくお話をお聞きします。

ご本人だけでなく、ご家族にも介護が必要であったり、孤立しないようにミニデイやサロンを紹介したり、体力維持のために歩いていける、いきいき100歳体操の会場へ一緒に行ったり、地域の資源をフル活用して、関係機関と協力しながら高齢者一人ひとりに合った支援をしていきます。



わたしの担当は、高知駅周辺の江ノ口地区ですが、各地域に高齢者支援センター、出張所がありますのでぜひご活用下さい。

やまもと ゆり

**ザ・RINSHO** 管理部 8 総務課 電話交換室

## はい、近森病院でございます。

### 総務課電話交換室

主な業務内容は、外線からの取り次ぎと、一般企業では珍しい内線から外線への取り次ぎです。繁忙時には1分間に約25本もの電話がかかってくるため、狭い交換室は耳と口と手元だけの静かなる戦闘モードとなります。

ハートコール放送、緊急を要する内容や救急患者さんの紹介電話等は最

優先業務ですのですぐに対応できるよう、できるだけ回線を塞がないように気を付けています。

外線の多くはお問い合わせですが、取次先の判断に迷うケースや、要領を得ない内容に焦りを感じることもあり、お子さまやご年配の方にも伝わり易い短くて簡単な言葉を使い、一度で



▲さまざまな運用や実状に即した取次ぎを行う

聞き取り、一度で伝わるよう、会話の語順や文字数を工夫しています。

これからも、救急病院の声の窓口として、簡潔な中にも印象のよいご案内をさせていただきたいと思います。

### お知らせ

#### クリニカルパス大会

「糖尿病教育入院パス改定」  
日時 3月27日（月）18時～19時30分  
会場 近森病院管理棟3階会議室

#### 第20回公開県民講座

「高齢者にやさしい医療」  
日時 4月22日（土）14時～16時  
会場 高知市文化プラザかるぽーと大ホール

## 役割の大切さ



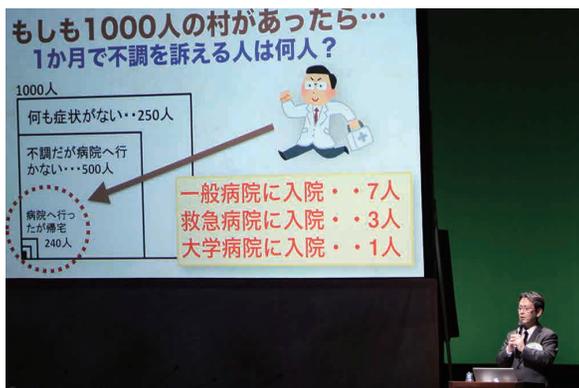
## 総合診療医

「かかり付け医」の役割  
—お薬を減らそう!—

近森病院総合診療科 部長 浅羽宏一

人間は年をとると病気が増えます。日本では専門医を受診される患者さんが多いので、なかには五つ以上の病院を受診される方もいます。専門医の先生は一つの病気に対して2、3種類のお薬を処方しますので、五つ以上の病院を受診する患者さんは、気が付くと20種類以上のお薬を服用しています。

医者も出来ればお薬を減らしたいと考えていますが、専門医の先生方は患者さんが他の病院を受診されていることを知りませんから、お薬を減らすことが出来ません。けれども総合診療医



▲基調講演をする筆者

(かかり付け医)は、患者さんのことを丸ごと知っていますので、患者さんの状態に合わせて、本人やご家族、専門医と話し合いながら、お薬を減らすことが出来ます。

あさば こういち

近森リハビリテーション病院  
作業療法科 主任  
岡田 祐一

就職し12年目を迎えます。その中でいろいろな役割をいただき、今までとは違った視点でのものの見方を学び、役割ができるごとに成長することを実感しています。

まだまだ力不足ではありますが、より良い作業療法が提供できるよう、科の運営や後輩指導を頑張っていきたいと思えます。これからもよろしくお願ひします。

おかだ ゆういち

## リレー エッセイ

## 小さいころに観た映画の魅力

近森病院総合心療センター 5階病棟

看護師 田村 真介



私の数少ない趣味のひとつは映画鑑賞です。流行のものも好きですが、とくにB級やC級映画といった、低予算・低クオリティのものが好きです。映画館で見るとありますが、自宅で映画を見ることのほうが多いです。

映画を見るきっかけとなったのは、小さいころは両親が共働きのため、家族そろって過ごす時間があまりなく、両親が共に休みの日にレンタルしてきたビデオを家族全員で夕食時に見ることが、家族とのコミュニケーションの場でした。そのなかで盛り上がり会話が弾むのが、B級・C級と

いった映画が多かったと記憶しています。

大人になってみて思うことは、小学生の頃に見た「バタリアン」というB級ホラー映画は当時の私にとってはトラウマもので恐怖の塊でしたが、大人になって見てみるとただのギャグ映画であつたりと、当時と印象が違って新たなおもしろさに気づきました。

また、スティーブン・キング原作の「スタンド・バイ・ミー」を見直すと、海外ドラマ「24」の主人公ジャック・バウアー役のキーファー・サザーランドが出演していたりと新たな発見

があつたりしますので、昔家族で見えた映画を改めて見てみると新たな発見があるかもしれませんよ。

現在、家族全員で映画を見る機会は少なくなりましたが、60代後半の両親は、ネットの動画配信サービスを使って映画視聴しており、レンタルのVHSからDVDを経て、時代の流れについていけているようです。

たむら しんすけ

## 私の趣味

## 刀は全身の力をぬき吐く息で振る



ファミリーユ高知 ウェーブ支援員  
クリーニング担当 佐藤 義明

居合いを始めたきっかけは、50歳を過ぎ病気を患い、仕事をする上で、迷いが多くでてきたため、自分の進む方向性をみつけないがために始めました。

居合いは、礼に始まり礼に終わります。一番大事なことは、居合ができる体、以下型と呼びますが型を作るのが難しいです。刀は、全身の力をぬき吐く息で振ります。複式呼吸が重要です。

敵は、自分で、鏡に映る自分より早く刀を抜き自分に勝つという到底達成できない暗黙知の次元の世界で、頭で考えるのではなく体で会得しなければいけません。ちょうど赤ん坊が親のすることをまねて成長していくみたいなのです。

居合いでは、見取り稽古と言いますが、先生からは2年半稽古し

少し居合いに慣れてきたな、と言われる程度です。居合いを始め以前と比較し少し変わったところは姿勢が良くなったことです。古武道は、心・技・体を重要視するといわれますが、まず型を作らなければ駄目です。

以前、何かの本で読んだのですが、心とは脳幹を指し姿勢が良くなると脳幹つまり心を鍛えることになり心と体のバランスがとれると記載されていました。

私自身仕事をする上に於いても、基本の姿勢を最も重視しています。まだ、まだ、道半ばです。

さとう よしあき



## ワイン講座 ● 50

ぶどう品種を知り、個性を探る  
黒ぶどう その28

## スペイン篇 メンシア

メンシアは、中世時代にスペイン北西部の巡礼地サンティアゴ・デ・コンポステラへと向かうカトリック（ヨーロッパ）の巡礼者によって、ビエルソ地区にもたらされたと考えられています。栽培、収穫に非常に手間の掛かる山間という立地もあり、固有品種としてのメンシアは長らく注目されることはありませんでした。

しかし、見捨てられたワイン生産地ビエルソで、2000年代以降新進気鋭の生産者によって注目される品種として脚光を浴び始めました。ガリシア州でも栽培されていますが、今日特に素晴

ベタロス／デスセンチエンテス・デ・ホセ・パラシオス／スペイン、ビエルソ ● 造り手アルバロ・パラシオスはスペインを代表するワインメーカーとして世界中に認められています。樹齢50年を上回るぶどうがバイオダイナミの精神で栽培され、凝縮感のある果実味、程よいタンニン、スパイシーなニュアンス、また、デリケートで繊細さも併せ持ち飲み疲れせず楽しむことができます。

らしい産地はビエルソです。

このワインの魅力は、暑い地方で造られたワインでありながら、濃縮感はあるながら、爽やかさと軽やかさがあるデリケートでエレガントな味わいです。カジュアルな価格帯が多い中、国際的に高い評価を受けるワインもあり、その味わいは時に「スペインのピノ・ノワール」と形容されることもあります

鬼田知明（有限会社鬼田酒店代表）



## ハッスル研修医

## 無我夢中の一年



初期研修医 平野 孝士

ご存知な方もいらっしゃるかもしれませんが、僕の出身は神奈川県で、24年間を同地で過ごしておりました。ほんとうに良い病院に行きたかったのと、あまりに平凡な人生を変えたくて、身一つで今年高知へ参りました。

近森病院はチーム医療では日本トップクラスの病院だと思います。様々な職種の方と連携し、最良の医療を行えるような医師になりたいと思っております。

今年の1年目は皆男性なため見分けが付かないと思います。ガニ股で偉そうに歩いている人がいたらおそらく僕です。パソコンの打ち方も偉そうだと言われます。申し訳ございません。直そうと頑張っているので話しかけてもらえると嬉しいです。

早いものでもう近森病院に入職してはや1年が経とうとしております。全てが新しいことであり、無我夢中で生きてまいりましたが、自分の能力のなさを痛感する毎日です。皆様、これからもよろしく願い申し上げます。

ひらの たかし

## 献血キャンペーン

ありがとうございました。

2月22日（水）に献血キャンペーンを開催しました。今回は◆名の方にご協力いただきました。

ありがとうございました。次回は◆月に予定しています。

## 近森病院での研修生活

社会医療法人仁愛会

浦添総合病院 理学療法士 松茂良 興昌



9月から近森病院のリハビリスタッフと交代という形で研修させていただいています。

冬が予想以上に寒くガタガタと震えています。それでもなんとか高知県の生活にも慣れてきたところです。しかしどうしても「のうがわるい」「ひやい」などの高知弁を攻略することができず悪戦苦闘しています。

はじめて近森病院を見たときの感想は「なんて大きな病院なんだ!」でした。たくさんのベッドが並ぶ高規格病棟やフロアに設備されたリハビリ訓練室、初めてみるSCUやウォッチルーム付のICUなどには圧倒されました。

リハビリテーション部では診療科ご

とにチームが分かれており、一人ひとりの専門的知識・技術が高いと感じました。的確な病態の理解や見たことない訓練内容など勉強になることがたくさんあり、とても有意義な時間が経過しています。また忙しい中とても丁寧に指導していただいております。スタッ



フの皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

今回は整形外科と循環器内科での研修でした。訓練内容や考え方、また多職種間での取り組みなど様々なことを学ぶことができました。特に循環器内科は今までに経験がなく、循環器疾患独特の訓練内容やリスク管理などを学ぶことができ知識の幅を広げることができました。

研修もあとひと月で終了になります。沖縄に戻った際には今回の経験を活かし、楽しかった高知県の思い出にも浸りながら更に精進していきたいと思っております。 まつもら おきまさ



## 精神看護専門看護師として

看護部キャリア開発課

看護師長 久保博美

精神科訪問看護に携わるなかで必要に駆られ、関係する皆様のご支援をいただいてこのたび資格を取得することができました。

現在は「精神看護」の領域を越えて、看護職員の人材育成に関わる機会を得

て活動しています。今は現場のニーズに対して自分の専門領域の内容をどう活用し、結びつけていけばよいか模索する日々です。

地域の要請に応えられる組織、その基盤を支える看護師の支援について周

囲の方々と繋がりながら取り組んでいきたいと考えています。

くぼ ひろみ



## お弁当拝見 50 いつものお弁当



近森病院  
地域医療連携センター  
ソーシャルワーカー

西森 実香



昨年11月からの入職を機に、しばらく休んでいたお弁当作りを再開しました。夫の分と二つ作っています。7歳と3歳の娘がいて、朝はバタバタと忙しいので、朝は卵焼きなど簡単なものを作るだけで、あとは作り置

きしているおかずを詰めて出来上がりです。

卵焼きや鶏の唐揚げ、かぼちゃや切り干し大根の煮物、ひじきの甘辛煮などが定番です。

あまり代わり映えのしないお弁当



ですが…最近、体重が増加ぎみの夫の為にも出来るだけ手作りのお弁当を作っていきたいと思っております。

にしもり みか

## ニューフェイス

①所属②出身地  
③最終出身校

④家族や趣味のこと、自己アピールなど

おめでとう

よさこい「ちかもり」の活動に支援をお願いします。



### 看護補助者（ポーター）兼 オフィシャルカメラマン 募集！

近森会では写真撮影ができるポーターさんを募集しています。ハローワークに求人案内がありますので、詳細はそちらでご確認ください。

#### 仕事内容

- ポーター業務  
院内及び建物間の検体、薬剤搬送、患者搬送など、看護師の指示に基づき行う業務です。
- オフィシャルカメラマン業務  
行事など依頼があれば写真撮影をしていただきます。その他の時間はポーター業務を行っていただきます。

### 図書室便り

2017年1月受入分

- TNM classification of malignant tumours 8th ed / James D. Brierley (他編)
- 臨床・病理肺癌取扱い規約 2017年1月第8版 / 日本肺癌学会 (編)
- 特発性間質性肺炎診断と治療の手引き改訂第3版 / 日本呼吸器学会びまん性肺疾患診断・治療ガイドライン作成委員会 (編)
- 診療情報管理パーフェクトガイド資格取得からICDコーディング、統計、DPCデータ活用まで / 須貝和則
- これでわかる！診療情報管理士の実務Q&A / 日本診療情報管理士会 (編)
- 《別冊・増刊号》
- Emergency Care 2017年新春増刊 オールカラー看護師・研修医必携 救急・ICUですぐに役立つ“超”ガイドラインこれだけBOOK / 阿南英明 (編)
- BRAIN NURSING 2017年春季増刊 オールカラー疾患別脳神経看護早わかりフローチャート / 日坂ゆかり (監)
- Infection Control 2017年春季増刊 オールカラーやり忘れ+うっかりを防ぐ！感染対策To Doリスト / 柴谷涼子 (他編)

### 2017年1月の診療数 システム管理室

|                  |         |
|------------------|---------|
| <b>近森会グループ</b>   |         |
| 外来患者数            | 18,549人 |
| 新入院患者数           | 993人    |
| 退院患者数            | 887人    |
| <b>近森病院（急性期）</b> |         |
| 平均在院日数           | 16.06日  |
| 地域医療支援病院紹介率      | 61.79%  |
| 地域医療支援病院逆紹介率     | 139.84% |
| 救急車搬入件数          | 631件    |
| うち入院件数           | 332件    |
| 手術件数             | 424件    |
| うち手術室実施          | 297件    |
| うち全身麻酔件数         | 166件    |

● 2017年1月 県外出張件数 ●  
件数 30件 延べ人数 54人

### 編集室通信

歳をとっても気づかされることは多い。あちこちブログを散策していて、こんな記事があった。人を「好き嫌いではなく、好きと無関心で判断しろ」という。無関心でいることで、腹立たしい相手や嫌な人にいちいち心を囚われることもなく、時間を有効に使える。負の感情でわざわざ不幸になる必要などないというのだ。けだし名言。 (霖)

## 素材を引き出す「そと」を意識

### 保育室「そと」の名付け親

素材の味を引き立たせ、調理に欠かせない「そと＝塩」。この「そと」の名付け親になった高橋和恵保育士が常々心がけたいと思っているのが、「素材（個性）を尊重すること」だという。

10年前の保育室編成替えに伴う名前募集に応募したものだ。保育士一筋39年の超ベテランの信条ともいえる。

自身の三人の子どもを育てる時期も、夫や親の協力で育休をとる必要もなく、今日に至っている。近森病院の保育室の開設からは47年経つから、そのほとんどの歴史に関わってきたことになる。初期の卒園生は40歳代に突入している。

### 子どもが好きな子どもだった

近所に小さい子がいっぱいいて、その子たちのお守りさんをしていた記憶が残っている。子どもが好きな子どもだった。

だから、高校時代に進路を決める際にも迷いなく幼児教育科へ進んだ。迷いがいなくなるから、親にも先生にも相談する必要がなかった。

母親が近森病院で看護師をしていた関係で、卒業直後の4月1日付で近森病院保育室に就職。母上も、いまでは定年退職からしばらく経つが、近森会一筋で看護に携わった人だった。

### 趣味二つとも、ずっと、ずうっと

趣味は二つ。フォークダンスと折り紙で、そのどちらも始めてからすでに何十年も続けている。保育士の仕事と直結し、腕前を高める一環のようにも見えるが、始めるきっかけは別にあった。どちらも、やるたび何か小さな発見があるから辞められないらしい。

まず、フォークダンス。中学校の卒業式に学年全体で輪になって踊った「感激の記憶」が直接のきっかけだった。「全体が一つになる衝撃」とでもいうのか、その一体感を短大時代の

サークルで思い起こし、再開した。就職してからも、夜勤あり、休日出勤ありの不規則勤務に負けず、月に数回のペースを守り、踊り続けている。味わう一体感には不思議なパワーがあるらしい。

折り紙もやはり短大時代、授業科目として習ったのが本格的に始めた最初だった。平面から思いもよらない立体が、それも魔法のように現われ、ここまで出来るのかという驚きに通じ、奥の深さにハマってしまった。

およそ15年前、近森会で折り紙教室が始まったとき、折り紙教室を幅広く主宰されていた川井和哉副院長の母上が講師に招かれた。その川井講師の教室に通い始めたのがきっかけで、ますますハマった。川井講師は、和紙そのものの紙質にこだわり、染め色までも工夫され、平面を立体に変える以上の魔力にも触れて、折り紙がますます好きになっていった。

### 結婚相手は、元競輪選手希望

ところで、30年近く前、当時、近森病院にもまだ男性看護師は数えるほどしかいなかった頃。そのなかの一人とウマが合い、結婚した。もと競輪選手希望の「変わり者」で、価値観の独特さや底抜けな明るさに惹かれたのが、仲良くなるきっかけだったようだ。いまでは出身地の公立病院のベテラン看護師だが、当時その公立病院でもまだ男性看護師は雇われてはおらず、そこで第一期生になった人である。その高橋司さんは近森病院の男性看護師一期生の一人でもあった。



「そと」で。お昼寝がいま終わりました。



### 焦らず、比べず、じっくりと

さて、本職の「子育て」について。

幼い子どもたちの保育という仕事もこれをしたからこうなるというような結果がすぐに見えるものではなく、「だからこそ、小さなちょっとした変化に喜びを見いだしたい」という。

よくいわれることだが、「ひとと比べるのではなく、きのうできなかったことがきょうできたとか、食べられなかった食べ物に挑戦できたとか。子ども達と一緒に喜びたい」という。

気長くじっくりと、期待をもって待てる大人になりたいと、公私ともに思っているし、「そう在るように努めたい」ともいう。「もっとも、自分の子育てでは、じっくり待てず、早く早くとばかり、焦っていたように思うのですけど（笑）。

保育士としての仕事も、結婚生活も、趣味も、じっくり構えるカメの心がけで、将来に楽しみを見いだせる希望発掘名人でもある。



青鬼赤鬼！元気に泣いた迫力満点の節分



## 貴重な経験を大切に、 これからも最善、最適の医療を実践

近森病院病理診断科

部長 円山 英昭



第3回病理解剖体慰霊祭は平成28年に病理解剖させていただいた19名の皆様のご冥福をお祈りすると同時に、解剖をご承諾いただいたご遺族の皆様へ心からの感謝の気持ちを込めて、平成29年2月11日（土）に当院の大会議室で行われました。

当日はご遺族の皆様と共に、診療に関係した院内各職種のスタッフ、初期臨床研修医や附属看護学校の1年生も参列しました。

私たちは解剖後、ご生前の臨床事項と解剖により直接得られた結果とを詳

細に検討し、病態やお亡くなりになられた原因をより正しく知ることが出来ました。

研修医は一連の学習を通し、病態や医療を深く学ぶことが出来ました。看護1年生は将来、医療に直接携わる者として、多くを考えさせていただきました。

私たちはそれぞれ、解剖により得られた貴重な経験を大切に、これからも最善、最適の医療の実践に努めます。合掌。

えんざん ひであき



▲ご遺族よりお言葉をいただきました



研修医より



## 英国医学雑誌 Lancet 電子版に掲載

### 世界初！ 23価肺炎球菌ワクチンの 「肺炎」に対する効果を証明

近森病院呼吸器・感染症内科

部長 石田 正之



2011年から2年間、長崎大学との市中発症肺炎の共同研究（全国成人肺炎研究グループ）に関する成果が1月23日に英国医学雑誌 Lancet 電子版に掲載されました。

この研究は、我が国では2014年から65歳以上の高齢者を対象に定期接種となった23価肺炎球菌ワクチン（ニューモバックス）の効果に関する

ものです。このワクチンは、30年以上前から世界中で使われており、敗血症のような「侵襲性感染症」への予防効果はわかっていましたが、それよりもずっと患者数が多い「肺炎」に対する効果については、定まった見解がありませんでした。今回の研究によりこのワクチンが、肺炎球菌性肺炎を27.4%、ワクチンがターゲットにして

いる23種類の血清型による肺炎球菌性肺炎を33.5%減らすことを世界で初めて証明いたしました。

仮に日本の高齢者全員にワクチン接種をすれば、年間10万人の肺炎を予防できる計算となります。今後の高齢者に対するワクチン政策に貢献する結果と考えています。

いしだ まさゆき